

治療中も天井に設置されたTV画面でDVDが見られる。子供の注意を歯以外のことにつらせる仕掛けがたくさんある。東京都港区白金の白金こどものはいしゃさん



子供に毎日の歯磨きや定期検診を楽しくやってもらおうという試みが広がっている。治療中にDVDが見られたり子供向けイベントを行ったりするクリニックや、歯に関する绘本が掲載されたインターネットサイトが登場。大人も子供と一緒に歯のケアを楽しみたい。（小川真由美、写真も）

# 歯医者さん 怖くない

ていた歯科医院に開業した。診察台に上がり、何度も通院してようやく治療ができた子供も少なくないという。園延さんは「白衣や注射という子供が病院を怖がるイメージを解消したかった」。

大正10年に国内初の児童歯科院を開いたライオン（東京都墨田区）は平成17年、虫歯予防の情報を掲載したウェブサイト「オーラルタウン」を開設した。歯磨きごとに得点になるゲームのほか、「バイキンの通信」など歯に関する「カムカムクラブ」を開設。主に4～12歳を対象とした「カムカムクラブ」を開設。子供の写真や治療記録を掲載した健康ノートに来院ごとにスタンプを押す。虫歯がなければ1回に2個、虫歯があると1個だが、10個集まるとクリニックのスタッフが手作りしたオリジナルカレンダーがもらえる。

まるで遊園地  
今年6月開業した、0～15歳の子供専門のクリニック「白金」（どものはいしゃさん（東京都港区））は、まるで遊園地のようだ。ソファの色はオレンジと緑。内装にはミッキーマウスなどキャラクターがあふれ、診察室の壁紙の柄は青空。子供が治療中、DVDを見られるよう3台ある診察台の真上にテレビ画面が設置されている。

スタッフも白衣ではなく歯科医は緑とオレンジの上下、他の職員はピンクのポロシャツ姿だ。治療が終わると、スタッフが子供に「すごいね」と何度も声をかける。

開業から3カ月間で、約450人の子供が受診。1時間以上かけて通う子供も多い。理事長の園延昌志さんは歯の治療を嫌がる子供に困っている親が多いのを知り、運営し

## 歯石沈着 20～24歳は51%

厚生労働省の歯科疾患実態調査（平成17年）によると、歯石の沈着（歯周ポケットが4ミリ以上を除く）は5～9歳が16.0%、10～14歳で25.4%、15～19歳で35.6%。80代までの全世代の中では20～24歳が51.4%で最多だった。

4～6ミリ未満の歯周ポケットは9歳以下では見られなかったが、10～14歳で1.0%、15～19歳で5.1%と増加。歯周病の兆候を示すプロービング（歯肉の縁から溝の一番深い所の距離の計測）後の出血は、5～9歳で22.9%、10～14歳で24.9%、15～19歳で25.4%となっている。

これまでに700人超の子供が参加しており、永井美也子院長は「子供を連れて歯医者に行きづらかった保護者がなった」と話す。

ライオン歯科衛生研究所の黒川亜紀子さんは「日常のケアは歯の健康には不可欠。家庭でコミュニケーションの環境として取り組んでほしい」と話している。